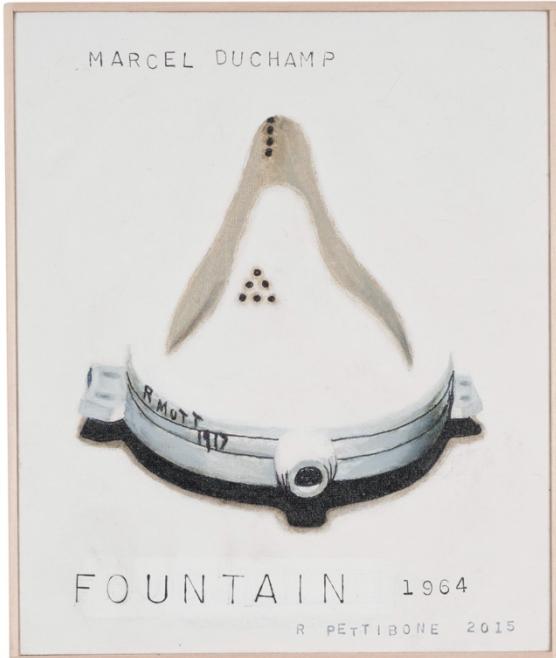




リチャード・ペティボーン / 金氏徹平

Monochrome Games (for Duchamp and Brancusi)



©Richard Pettibone, Courtesy of Castelli Gallery



©Teppei Kaneiji, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

2025年12月9日(火) - 2026年1月31日(土)

*12月13日(土)17:00-19:00にオープニングレセプションを行います。
*2025年12月28日(日) - 2026年1月6日(火)の期間、展覧会は開催しておりません。

Yumiko Chiba Associates

東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ 3F
営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝日
協力: Castelli Gallery

このたび、金氏徹平とリチャード・ペティボーンの二人展を開催します。

金氏は、複雑なイメージを幾重にも組み合わせたコラージュや彫刻の制作で知られています。2023年からは、立体的な凹凸のある物体にプリントすることのできる最新技術をもちいた、多重レイヤー化され、錯綜する雑多なイメージから構成された作品シリーズ「POOOPOOPOO」も手がけています。この作品では、アンディ・ウォーホルやマルセル・デュシャンの作品などの既存のイメージだけではなく、写真やチラシなどの印刷物、子供の落書きや個人的なイメージの断片など、さまざまなイメージが画面に流れ込み、絡み合い交錯しています。

ペティボーンは、既存の作家の作品イメージを小さなサイズの画面に忠実に再現した絵画を制作する作家です。その作品の小さなサイズは、彼が美術雑誌で見た作品のイメージを忠実に再現したものでもありました。それは、モダン・アートの巨匠たちの作品をミニチュア化することで、彼個人のリアルな経験や生活のなかに位置づけるという意味をもつものであったのかもしれません。既存のイメージを絵画として再現し、流用するペティボーンの手法は、1980年代に「アプロプリエーション・アート」と呼ばれる動向の基盤を形成しました。

このように、金氏とペティボーンの作品は、過去の画家たちの作品などの既存のイメージを再解釈し、解体したうえで、そこに個人的な経験を加え変化させ、別の運動や方向を与えていく姿勢によって共通していると言えるかもしれません。

今回の二人展は、ブランクーシとデュシャンを題材としたペティボーンのモノクローム絵画とともに、金氏がそれらの作品にオマージュした「POOOPOOPOO」シリーズの新作で構成されます。モノクロームというルールを用いて、二人の作家がどういうゲームを展開するのか、ぜひご覧ください。



アーティストステートメント

モノクローム・ゲームとはチェス、オセロ、囲碁などの一対一で行うアブストラクト・ゲームを指します。このコラボレーションは、ペティボンによる、20世紀のマスターピースを縮小して手描きでコピーし、積み木や玩具のように再構成する作品群と、私が2023年から展開している、やはり20世紀のマスターピースのパーツを、木、鉄板、ガラスなどの物質の上に絵の具、ステッカー、スプレー、テープなどで作ったベースの上からUVインクで多層的にコラージュし、印刷することを繰り返して新しい絵画的彫刻を作り出す「POOPOOPOO」シリーズとの類似に着目するところから始まっています。これらのコンセプトの元には、デュシャンのレディメイドや、ブランクーシの彫刻と台座または反復的な造形に関する思考との繋がりがあります。デュシャンとブランクーシの作品はペティボンも好んで扱う対象でした。それらを扱った作品群から、特にモノクロームの作品を集め、そのペティボンの作品群の元ネタ、またはサイズや構図を元に、新しく「POOPOOPOO」シリーズを制作しました。モノクロームというルールを用いることで、デュシャン、ブランクーシ、ペティボンとの交通網、もしくは共通のゲーム盤や駒を作り出し、最新の印刷技術と、イメージ収集の方法を用いることで、新しい接続点を含んだ絵画的彫刻を作り出す試みと言えるのではないかと思います。また、ペティボンのアプローチの手法の作品を、更にアプローチすることで見えて来る地平は、膨大な歴史や情報、またはそのAI的な処理に対する個人的な抵抗、もしくは考察にもなりえるのではないかと考えます。

金氏徹平

*「POOPOOPOO」シリーズについて

PとOの羅列は途中までは正確に作品の制作プロセスの順番を追っていますが、途中からは無意味なフィクションです。

photo、on、phenomenon、oil、paint、of、picture、object、panel、over、pour、or、print、opposite、planet、optimize、paper、、、液体(インクや絵の具)としての写真と絵。

リヒターの"oil on photo"、高松の"写真の写真"から反転・展開し、"photo on oil"、"絵の写真の絵の写真"。

これらの作品は絵画ではなく、コラージュによって空間を作り出す彫刻だと考えています。

一時的な単位、空間、歴史、集団、価値、を作り、それがまたバラバラになったり、別の何かに変化していく。

閉じた一つとして見えていたものを、解体し、それ自体をマテリアルとして見て、それらの層の中に空間を作ることで異物やフィクションが紛れ込む余地を作っています。

金氏徹平

【トークイベント】

開催予定

*申し込み詳細等は改めてご案内いたします。

■アーティストプロフィール■

■ リチャード・ペティボーン（アメリカ、1938 - 2024）

アプローチの手法を使う先駆者のアーティストの一人である。ロスアンゼルスで生まれ、始めはシャドー ボックスやアッセンブラーに取り組み、工芸、建設に興味を示し、ミニチュア・スケールで作品を制作した。1964年には始めてのアプローチの作品、アンディ・ウォーホルの代表的なキャンベルのスープ缶を描いた二つの小さなレプリカ作品を作った。1965年までに、ウォーホル、ロイ・リキテンスタイン、エド・ルシェ、他にも、ポップアート界の大物を含む、アメリカ人アーティスト達の絵画の「レプリカ」をいくつも制作した。ペティボーンは、複製のテーマが多い一流の前衛アーティスト達の作品を再現したが、それは彼の作品により皮肉さを加えた。また、マルセル・デュシャンの「自転車の車輪」の完全コピーを含む、ミニチュアや実物大の彫刻作品の両方を作り、1980年代には、コンスタンティン・ブランクーシの、最も有名な作品の再現からなる様々なサイズの彫刻の全シリーズを完成した。近年ではエズラ・パウンドの詩集の表紙をモチーフにした絵画や、ピート・モンティアーニのグリッド・コンポジションをベースに彫刻を制作した。ペティボーンはアプローチの、ポップアート、コンセプチュアルアートの境界をまたいでいる。彼の作品が、作者性、職人の技、アートにおけるオリジナルについて、重要な問い合わせていることから、何十年ものあいだ批評家達の注目を集めている。リチャード・ペティボーンの作品はInstitute for Contemporary Art (フィラデルフィア)、Museum of Modern Art (ニューヨーク)、Museum of Contemporary Art (マイアミ)、Laguna Art Museum、(ラグナビーチ、カリフォルニア)で展示されて来ている。2024年8月死去。

作品はWhitney Museum of American Art (ニューヨーク)、Museum of Modern Art (ニューヨーク)、Detroit Institute of Arts (デトロイト)、Museum of Fine Arts Boston (ボストン)、National Gallery of Art (ワシントン)など主要な美術館にコレクションされている。

■ 金氏徹平（日本、1978 - ）

1978年京都府生まれ、京都市在住。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻准教授。

日常の事物を収集し、コラージュの手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探求。個展「POOPOOPOO」(Yumiko Chiba Associates、2023)、「消しゴム森」(金沢21世紀美術館、2020)、「金氏徹平のメルカトル・メンプレン」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016)、「四角い液体、メタリックなメモリー」(京都芸術センター、2014)、「Towering Something」(ユーレンス現代美術センター、2013)、「溶け出す都市、空白の森」(横浜美術館、2009)など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」(2011)、KAATキッズ・プログラム2015 おいしいおかしいおしゃべり「わかったさんのクッキー」(2015-2016)、KYOTO EXPERIMENT 2019 チェルフィッシュ × 金氏徹平、「消しゴム山」(2019)、チェルフィッシュ × 金氏徹平「消しゴム森」(金沢21世紀美術館、2020)での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「tower (THEATER)」(ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017)では演出を手掛ける。

作品は横浜美術館、森美術館、東京都現代美術館、国立国際美術館、金沢21世紀美術館、Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art (オーストラリア)など国内外の主要な美術館にコレクションされている。



リチャード・ペティボーン

[主な個展]

1963	Aura Gallery, Pasadena, California
1965	Ferus Gallery, Los Angeles
1969	<i>Richard Pettibone</i> , Leo Castelli Gallery, New York
1970	OK Harris Works of Art, New York
	OK Harris Works of Art, New York
1971	Contrack Graphics, Houston
	Akron Art Institute, Akron, Ohio
	OK Harris Works of Art, New York
1972	Gallery Mikro, Berlin
1973	<i>Small Paintings</i> , OK Harris Works of Art, New York
1974	<i>Recent Work</i> , OK Harris Works of Art, New York
1975	<i>Recent Work</i> , Morgan Gallery, Shawnee Mission, Kansas
1976	<i>New Paintings</i> , Max Protetch, Washington, D.C.
	<i>Recent Paintings</i> , OK Harris Works of Art, New York
1978	OK Harris Works of Art, New York
1979	<i>Recent Paintings</i> , Ehrlich Gallery, New York
1980	<i>Painted Polaroid Photographs</i> , Ehrlich Gallery, New York
	<i>Paintings and Photographs of Photographs and Paintings</i> , Tortue Gallery, Santa Monica
1981	<i>Twenty-Year Survey / A survey of work from 1961 through 1981</i> , Art Gallery, Los Angeles Valley College, Van Nuys, California
1982	<i>Recent Work</i> , Tortue Gallery, Santa Monica
1983	Robert Freidus Gallery, New York
1984	<i>Recent Paintings</i> , Tortue Gallery, Santa Monica
	<i>Richard Pettibone / Pablo Picasso: etchings and paintings from "347" series</i> , Freidus/Ordover Gallery, New York
1987	<i>Hommage to Andy Warhol</i> , Tortue Gallery, Santa Monica
	<i>Works 1964 to 1987</i> , Nature Morte, New York
1988	<i>La Galerie de Poche</i> , Paris
1989	Curt Marcus Gallery, New York
1990	<i>Paintings and Sculpture</i> , Michael Kohn Gallery, Santa Monica
1991	Curt Marcus Gallery, New York
1992	<i>Paintings and Sculpture 1964 to 1992</i> , Michael Kohn Gallery, Santa Monica
1993	<i>Books, Easels, Columns, Ladders & Shovels</i> , Curt Marcus Gallery, New York
	<i>The George and Edith Rickey Collection of Constructivist Art and Richard Pettibone Miniatures</i> , Neuberger Museum of Art, Purchase, New York
1995	<i>Richard Pettibone: Sculpture & Objects</i> , Kohn Turner Gallery, Los Angeles
	<i>Richard Pettibone: Sculpture</i> , Arts Club of Chicago, Chicago
1996	<i>Richard Pettibone: Painting and Sculpture</i> , Curt Marcus Gallery, New York
1998	<i>Sculpture and Paintings</i> , John Berggruen Gallery, San Francisco
1999	<i>Richard Pettibone: Paintings and Sculpture</i> , Curt Marcus Gallery, New York
2001	<i>Richard Pettibone: Paintings and Sculpture</i> , Curt Marcus Gallery, New York
2003	<i>Richard Pettibone</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2004	<i>Richard Pettibone: Works 1964-2004</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2005	<i>Richard Pettibone: A Retrospective</i> , Institute of Contemporary Art, Philadelphia; The Frances Young Tang Teaching Museum and Art Gallery, Skidmore College, Saratoga Springs, New York; Laguna Art Museum, Laguna Beach, California
2006	<i>Richard Pettibone: Sixty-four Campbell's Soup Cans</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2008	<i>Richard Pettibone: Paintings of Sculptures</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2011	<i>Richard Pettibone: Recent Works</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2013	<i>Richard Pettibone: Recent Work</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2015	<i>Richard Pettibone: Paintings and Drawings 1972-1994</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2016	<i>Richard Pettibone: 64 Paintings, 9 Works</i> , Leo Castelli Gallery, New York
	<i>The Blind Man: Recent Paintings by Richard Pettibone</i> , Leo Castelli Gallery, New York
	<i>Richard Pettibone: Black and White</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2018	<i>Richard Pettibone: Recent Works</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2022	<i>Richard Pettibone: The American Flag</i> , Leo Castelli Gallery, New York



[主なグループ展]

- 1962 *Directions in Collage: California*, Pasadena Art Museum, Pasadena, California
- 1963 *Pop Art USA*, Oakland Art Museum, Oakland, California
- 1969 *David Diao, Richard Pettibone, Peter Young*, Leo Castelli Gallery, New York
- 1973 *The Betty and Monte Factor Family Collection*, Pasadena Art Museum, Pasadena, California
- 1975 *The Small Scale in Contemporary Art*, Art Institute of Chicago, Chicago
- 1976 *Painting & Sculpture in California: The Modern Era*, San Francisco Museum of Modern Art, San Francisco; the National Collection of Fine Arts, Smithsonian Institution, Washington, D.C.
- 1977 *Miniature*, California State University, Los Angeles
Small Objects, Whitney Museum of American Art at Downtown Federal Reserve Plaza, New York
Recent Works on Paper by American Artists, Madison Art Center, Madison, Wisconsin
- 1978 *Artists Look At Art*, Helen Foresman Spencer Museum of Art, University of Kansas, Lawrence, Kansas
Art About Art, Whitney Museum of American Art, New York
Selections from the Frederick Weisman Company Collection of California Art, The Art Museum and Galleries, California State University, Long Beach, California
- 1979 *Trompe l'Oeil: Five Perspectives*, Webb and Parsons Gallery, New Canaan, Connecticut
- 1981 *Déjà-Vu: Masterpieces Updated*, The Western Association of Art Museums, San Francisco, California; El Paso Museum of Art, El Paso, Texas; Cheney Cowles Memorial Museum, Spokane, Washington; Arapahoe Community College, Littleton, Colorado; Roanoke Fine Arts Center, Roanoke, Virginia; Colorado State University, Fort Collins, Colorado; Dayton Art Institute, Dayton Ohio; Pacific Union College Art Gallery, Angwin, California; Art Center, Inc., South Bend, Indiana; Beaumont Art Museum, Beaumont, Texas; University of Hawaii, Honolulu, Hawaii; Community College Art Gallery, Santa Fe, New Mexico; Bass Museum, Miami Beach, Florida; The Fine Arts Center, Nashville, Tennessee
- 1984 *The Success of Failure*, Diane Brown Gallery, New York
- 1986 *Investigations*, McIntosh/Drysdale, Washington, D.C.
- 1987 *Art Against Aids*, Nature Morte, New York
Comic Iconoclasm, Institute of Contemporary Art, London; Douglas Hyde Gallery, Dublin; Cornerhouse Gallery, Manchester, United Kingdom; Circulo des Belles Arts, Madrid; Louisiana Museum, Humlebaek, Denmark
- 1988 *Redux*, Maloney Gallery, Los Angeles
- 1989 *Poetic Objectives*, Curt Marcus Gallery, New York
- 1991 *Curt Marcus Gallery*, New York
Outside America: Going into the 90s, Fay Gold Gallery, Atlanta
Aspect de l'Art du Xxème Siècle, Abbaye Saint-André, Meymac, France
(Art)2: Art Appropriates Art, Art Gallery at California State University, Fullerton, California
- 1992 *Group Show*, Sharadin Art Gallery, Kutztown University, Kutztown, Pennsylvania
Questions: The Second History of Art, Aldrich Contemporary Art Museum, Ridgefield, Connecticut; The Dayton Art Institute Museum of Contemporary Art at Wright State University, Dayton, Ohio
Selections from the Marcia Simon Weisman Collection, The Menil Collection, Houston; The Museum of Contemporary Art, Los Angeles
- 1993 *Curt Marcus Gallery*, New York
Curt Marcus Gallery, New York
Curt Marcus Gallery, New York
I Am The Enunciator, Thread Waxing Space, New York
Richard Pettibone and Mark Innerst, Galerie Montenay, Paris
45th Annual Purchase Exhibition, American Academy of Arts and Letters, New York
- 1994 *Painting*, Rhona Hoffman Gallery, Chicago
Elvis + Marilyn: 2 x Immortal, Institute of Contemporary Art, Boston; Contemporary Arts Museum, Houston, Texas; Mint Museum of Art, Charlotte, North Carolina; Cleveland Museum of Art, Cleveland, Ohio; New York Historical Society, New York; Philbrook Museum of Art, Tulsa, Oklahoma; Columbus Museum of Art, Columbus, Ohio; Tennessee State Museum, Nashville, Tennessee; San Jose Museum of Art, San Jose, California; Honolulu Academy of Art, Honolulu, Hawaii
- 1995 *Americana*, Tricia Collins Grand Salon, New York
Degrees of Abstraction: From Morris Louis to Mapplethorpe, Museum of Fine Arts, Boston
Sculpture As Objects: 1915-1995, Curt Marcus Gallery, New York
min.i.mund.us, White Columns, New York
Curt Marcus Gallery, New York
Five Longish Wood Sculptures, Feature Inc., New York
- 1996 *Champions of Modernism: Art of Tomorrow / Art of Today*, Castle Gallery, College of New Rochelle, New Rochelle, New York; Mary Washington College Galleries, Fredericksburg, Virginia; Gibbes Museum of Art, Charleston, South Carolina; Sunrise Museum, Charleston, West Virginia; Brevard Museum of Art and Science, Melbourne, Florida
The Baseball Show, Curt Marcus Gallery, New York
The Subverted Object, Ubu Gallery, New York



1997	<i>So Much Deathless</i> , Nicole Klagsbrun Gallery, New York <i>Best of the Season: Selected Work from 1996-97 Gallery Exhibitions</i> , Aldrich Contemporary Art Museum, Ridgefield, Connecticut
1999	Curt Marcus Gallery, New York <i>Originale echt / falsch: Nachahmung, Kopie, Zitat, Aneignung, Fälschung in der Gegenwartskunst</i> , Neues Museum Weserburg Bremen, Bremen, Germany <i>Apropos of Marcel: The Art of Making Art After Duchamp in the Age of Mechanical Reproduction</i> , Curt Marcus Gallery, New York
2001	Curt Marcus Gallery, New York Curt Marcus Gallery, New York <i>Work: Shaker Design and Recent Art</i> , The Frances Young Tang Teaching Museum and Art Gallery, Skidmore College, Saratoga Springs, New York <i>Warhol and Company: Works on Paper</i> , Hockaday Art Museum, East Kalispell, Montana
2002	<i>OII (The Original Invoice Show)</i> , Track 16 Gallery, Santa Monica, California <i>Inaugural Exhibition</i> , Red Dot, New York <i>From Picasso to Pettibone</i> , Ikon Ltd. Contemporary Art, Santa Monica, California
2003	<i>Aftershock: The Legacy of the Readymade in Post-War and Contemporary American Art</i> , Dickinson Roundell Gallery, New York <i>Living With Duchamp</i> , The Frances Young Tang Teaching Museum and Art Gallery, Skidmore College, Saratoga Springs, New York <i>The Recurrent, Haunting Ghost: Reflections of Marcel Duchamp in Modern and Contemporary Art</i> , Francis Naumann Fine Art, New York <i>The Real Thing: Appropriation 1965 to the Present</i> , Steven Wolf Fine Arts, San Francisco
2004	<i>About Painting</i> , The Frances Young Tang Teaching Museum and Art Gallery, Skidmore College, Saratoga Springs, New York <i>Manipulated Realities: From Pop Art to New Realism</i> , Belger Art Center, University of Missouri, Kansas City, Missouri
2007	<i>Endless Western Sunset: Karen Carson, Joe Goode, Steve Hurd, Sister Corita Kent, Kaz Oshiro, Richard Pettibone, Adam Ross, Ed Ruscha</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2009	<i>Polaroids: Diana Kingsley, Richard Pettibone, Mike and Doug Starn</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2011	<i>Middle Age: John Baldessari, Jasper Johns, Diana Kingsley, Roy Lichtenstein, Richard Pettibone, Ed Ruscha, Ludwig Schwarz, Oona Stern, Lawrence Weiner, Edwin Wurm</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2013	<i>Recent Works by Diana Kingsley, Robert Morris, Richard Pettibone, Keith Sonnier, and Mike and Doug Starn</i> , Leo Castelli Gallery, New York
2020	<i>Homestyle II: Noriko Ambe, Richard Artschwager, Frank Gehry, Joseph Kosuth, Roy Lichtenstein, Robert Morris, Kaz Oshiro, Richard Pettibone, Robert Therrien</i> , Leo Castelli Gallery, New York <i>Group Show: John Chamberlain, Joseph Cornell, Jasper Johns, Donald Judd, Yayoi Kusama, Roy Lichtenstein, Robert Morris, Richard Pettibone, James Rosenquist, Mike and Doug Starn, Lawrence Weiner</i> , Leo Castelli Gallery, New York

[主なコレクション]

Whitney Museum of American Art (ニューヨーク)、Museum of Modern Art (ニューヨーク)、Detroit Institute of Arts (デトロイト)、Museum of Fine Arts Boston (ボストン)、National Gallery of Art (ワシントン)

金氏徹平

1978 年	京都府生まれ
2001 年	京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業 Royal College of Art /Sculpture course 交換留学
2003 年	京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了

[主な個展]

2002 年	「空白と漂泊」児玉画廊 (大阪)
2003 年	「白煙と濃霧」児玉画廊 (大阪)
2004 年	「小動物と大洪水」児玉画廊 (大阪)
	「白夜のユーレイ」児玉画廊 (東京)
2006 年	「飛沫と破片」児玉画廊 (大阪) - 「liquid collage」TAKEFLOOR (東京)



2007 年	「phenomenon」児玉画廊（東京） 「金氏徹平展 splash & flake」広島市現代美術館[ミュージアムスタジオ]（広島） 「smoke & fog」児玉画廊（東京） 「hole & all」児玉画廊（大阪）
2008 年	「TEAM 10 金氏徹平『Ghost In The City Lights』」トーキョーワンダーサイト渋谷（東京） 「Great Escape」project room sasao（秋田）
2009 年	「金氏徹平展：溶け出す都市、空白の森」横浜美術館（横浜） 「Tower」Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー） 「变成態リアルな現代の物質性」gallery αM（東京）
2010 年	「Recent Works ‘Post Something’」シュウゴアーツ（東京） 「Ghost in the Museum」兵庫県立美術館（神戸）
2011 年	「Ghost in the City Lights」Eslite Gallery（台北） 「POST-NOTHING」Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー）
2012 年	「Something on the Planet」シュウゴアーツ（東京）
2013 年	「Towering Something」Ullens Center for Contemporary Art（北京） 「Something in the air」Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー）
2013-14 年	「Towering Something」chi K11 art space（上海）
2014 年	「四角い液体、メタリックなメモリー」Kyoto Experiment 2014 京都芸術センター（京都） 「Endless, Nameless (Constructions)」STPI（シンガポール） 「フライド幽霊とボイルド空想」シュウゴアーツ（東京）
2015 年	「DEEP FRIED GHOST」Jane Lombard Gallery（ニューヨーク） 「Sweet Pickled Phantom」ONE AND J. GALLERY（ソウル） 「Retrospective / DESTROY ALL SCULPTURES」 ALL NIGHT HAPS 2015 HAPS（京都）
2016 年	「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川） 「Daydream with Gravity」Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー）
2017 年	「記号は記号ではない」上野の森美術館（東京） 「クリスピーな倉庫、クリーミーな部屋」MASK（大阪） 「Spook in Hot Pot」Star Gallery（北京） 「自転車が街を彫刻する」Hotel Anteroom Kyoto Gallery 9.5（京都）
2018 年	「Romantic Barricade」Eslite Gallery（台北） 「Summer Fiction」アートフロントギャラリー（東京）
2019 年	「PLASTIC BARRICADE」Jane Lombard Gallery（ニューヨーク） 「髪とプラスチックと黄金」haku（京都）
2020 年	「金氏徹平のグッドベンチレーション-360°を超えて-」多摩美術大学アートティークギャラリー（東京） 「消しひめ森」金沢21世紀美術館（石川）
2020-21 年	「En/trance」Japan Society New York Foyer Garden（ニューヨーク）
2021 年	「S.F. (Splash and Fragments)」リコーアートギャラリー（東京） 「S.F. (Smoke and Fog)」アートフロントギャラリー（東京） 「物！物！物！」Click Ten Art Space（北京）
2022 年	「Fluorescent Green Box と未発表、未完成作品」NADiff a/p/a/r/t（東京） 「S.F.(Something Falling/Floating)」市原湖畔美術館（千葉）
2023 年	anonymous collection, ZeroBase 神宮前（東京） 「POOOPOOPOO」Yumiko Chiba Associates（東京） 「DOUBLE TROUBLE CMTK: CHIHIRO MORI X TEPPEI KANEUJI」 Jane Lombard Gallery（ニューヨーク）
2025 年	Upcoming: Yumiko Chiba Associates（東京）

[主なグループ展]

2002 年	「俯瞰景」neutron（京都）
2003 年	「日重」ギャラリーそわか（京都）
2004 年	「KOBE ART ANNUAL 2003-Grip the Gap-」 「Art Court Frontier 2004 #2」ARTCOURT Gallery（大阪） 「Art in Transit Vol.6」パレスサイドホテル（京都） 「Re SPORTS (Re OLYMPIC のプレ・イヴェント)」STUDIO EARKA（大阪）
2005 年	「Table Tennis Players」（アーティストユニット COUMA のメンバーとして）art project room ARTZONE（京都） 「Ignore your perspective」児玉画廊（東京） 「横浜トリエンナーレ 2005」（アーティストユニット COUMA のメンバーとして），山下埠頭（横浜）
2006 年	「Ignore your perspective 2」児玉画廊（大阪） 「With Marcel Duchamp」児玉画廊（東京） 「大和ラヂエーター製作所ビューアイシングルーム vol.1」大和ラヂエータービューアイシングルーム（広島） 「ALLLOOKSAME?/ TUTTUGUALE?: Arte Cina Giappone Corea Art」 サンドレット・レ・レバウデンゴ財団（トリノ） 「Mixed Signals」Ronald Feldman Gallery（アメリカ）
2007 年	



- 「笑い展:現代アートにみる『おかしみ』の事情」森美術館（東京）
「ignore your perspective 3」児玉画廊（大阪）
「VOCA 展 2007 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
「美麗新世界:当代日本視覚文化」Long March Space/ Inter Arts Center, 東京画廊+BTAP/北京, 広東美術館（広州）
「Exhibition as media」神戸アートビレッジセンター（兵庫）
2008年
「MOT アニュアル 2008 解きほぐすとき」東京都現代美術館（東京）
「タンジェント:TANGENT」国際芸術センター青森 ACAC（青森）
「Re: Membering」Gallery LOOP（ソウル）
「MOT コレクション 夏の遊び場しりとり、ままごと、なぞなぞ、ぶらんこ」東京都現代美術館（東京）
「WARM UP」民生現代美術館（上海）
「Platform 2009 Projects by Invited Curators」KIMUSA ほか（ソウル）
「広島アートプロジェクト 2009 いざ、船内探検!吉宝丸展」広島市中区吉島地区各所（広島）
「City-net Asia 2009」ソウル美術館（ソウル）
「Twist and Shout」Bangkok Art and Culture Centre（バンコク）
2010年
「手感的妙」Project Fulfill Art Space（台北）
「レゾナンス 共鳴 人と響き合うアート」サントリーミュージアム[天保山]（大阪）
「ONE AND J. GALLERY at PIERRE KOENIG」Pierre Koenig Case Study House #21（ロサンゼルス）
「Yellow Gate」Sangrok Gallery, Gwangju Museum of Art（韓国）
「大衆絵画選抄」Daiwa Press Viewing Room（広島）
「Living with art」Yi&C. Contemporary Art（台北）
2011年
「赤塚不二夫マンガ大学展」京都国際マンガミュージアム（京都）
「世界制作の方法」国立国際美術館（大阪）
「フィギュアたちの人生」ボーダレス・アートミュージアム（滋賀）
「Making is Thinking」Witte de with（ロッテルダム）
「JAPANCONGO」Le Magasin - Centre National d' Art Contemporain（フランス）
「シンガポール・ビエンナーレ 2011」シンガポール国立博物館（シンガポール）
「Extra Schicht 2011」Dortmunder U（ドイツ）
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2011」（兵庫）
「PACIFIC」Scion Installation LA（ロサンゼルス）
「アブストラと 12人の芸術家」大同倉庫（京都）
「Japan Media Arts Festival in Hong Kong 2012 Parade: Invisibles In Japanese Media Arts From "Night Parade of One Hundred Demons" to "IS Parade"」ArtisTree（香港）
「Sculpture by Other Means」ONE AND J. GALLERY（ソウル）
「CPUE 2012」ギャラリー LE DECO（東京）
「ビルディング 美術という建築」広島市現代美術館（広島）
2012年
「堂島リバービエンナーレ 2013」堂島リバーフォーラム（大阪）
「アートがあれば II」東京オペラシティ アートギャラリー（東京）
「ホワット(ネ)エヴァー」コーポ北加賀屋（大阪）
「Re:Quest—1970 年代以降の日本現代美術」ソウル大学校美術館（ソウル）
2013年
「Mono No Aware. Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」
エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク）
「MOT コレクション 第 2 部 つくる、つかう、つかまえる」東京都現代美術館（東京）
「Now Japan; Exhibition with 37 contemporary Japanese artists」Kunsthal KAdE（オランダ）
「六本木クロッシング 2013 展:アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」森美術館（東京）
「Open Storage 2014 - 見せる収蔵庫 -」MASK (MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA)（大阪）
「舞台がぼんやり見えてきた」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（京都）
「線を積む | Piling Lines」FAL 武蔵野美術大学（東京）
「私の神さま|あなたの神さま」成安造形大学（滋賀）
「東京アートミーティング第 5 回 新たな系譜学をもとめて 跳躍/痕跡/身体」東京都現代美術館（東京）
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2014」（兵庫）
「絵画の輪郭」シュウゴアーツ（東京）
「開館 15 周年記念 サッカー展、イメージのゆくえ。」うらわ美術館（埼玉）
2013-14年
「500 メーターズプロジェクト 001 Re: 送っていただけませんか?」札幌大通地下ギャラリー—500m 美術館（札幌）
「DAYDREAM with GRAVITY」HOTEL ANTEROOM KYOTO（京都）
「ロジカル・エモーション—日本現代美術展」ハウス・コンストルクティヴ美術館（チューリッヒ）、
クラクフ現代美術館（ポーランド）、ザクセンアンハルト州立美術館（ドイツ）
2014年
「GLASSSTRESS 2015 GOTIKA」Fondazione Berengo（ヴェニス）
「ザ・コンテンポラリー 1 われらの時代 ポスト工業化社会の美術」金沢 21 世紀美術館（石川）
「Moving Light, Roving Sight」Ikkan Art Gallery（シンガポール）
「I am, Because of You」Yuan Space（北京）
「Artist Making Movement: 2015 Asian Art Biennia」国立台湾美術館（台中）
2015年
「つらなるかたち」清津倉庫美術館（新潟）
2016年



- 「stir, stir...0」 Statements (東京)
「ちがったさんのラッキー、金氏徹平 + 岡田利規」金沢 21 世紀美術館 (石川)
- 2017 年
「金氏徹平、クリスピーな倉庫、クリーミーな部屋」MASK [MEGA ART STORAGE KITAKAGAYA] (大阪)
「非常持——保启示」銀川現代美術館 (銀川)
「Japanorama」ポンピドゥ・センター・メス (フランス)
「第 9 回恵比寿映像祭 マルチプルな未来」恵比寿ガーデンプレイス、東京都写真美術館 (東京)
「OpenArt ビエンナーレ 2017」Orebro Lans Museum, Oebro Konsthall (スウェーデン)
「Re-Born ART Festival」(石巻)
「Forms and Effects: Ukiyo-e to Anime」
The Berrie Center Art Galleries, Ramapo College of New Jersey (ニュージャージー)
2018 年
「国立国際美術館コレクション・美術のみかた 自由自在」福岡県立美術館 (福岡)
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」(新潟)
「21 世紀の美術 タグチアートコレクション展」平塚市美術館 (神奈川)
「六本木アートナイト 2018」(東京)
「Playtime」Peabody Essex Museum (アメリカ)
「Singing Pictures」Whistle (ソウル)
「メガネと旅する美術展」青森県立美術館、静岡県立美術館、島根県立石見美術館
「橋をかける」PARC (札幌)
「象る、象られる。」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
2019 年
「Vong Co RAHZI」Blum & Poe Tokyo (東京)
「Kyoto Graphie 2019」(京都)
「瀬戸内国際芸術祭 2019」(香川、岡山)
「世界を開くのは誰だ?」豊田市美術館 (愛知)
「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」東京都現代美術館 (東京)
2020 年
「フライング・ヴンダーカンマー」toberu (京都)
「Silver Mist from the Empty Pot, Chihiro Mori/Teppei Kaneiji」Jane Lombard Gallery (アメリカ)
「Turning the Axis of the World」STPI (シンガポール)
「ヨコハマトリエンナーレ 2020 AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」横浜美術館、プロット 48 他 (神奈川)
「コレクション 1:越境する線描」国立国際美術館 (大阪)
「デイヴィッド・シュリグリー/金氏徹平」Yumiko Chiba Associates (東京)
2021 年
「オムニスカルプチャーズ-彫刻となる場所-」武蔵野美術大学美術館 (東京)
「村田沙耶香のユートピア_“正常”の構造と暴力 ダイアローグ デヴィッド・シュリグリー ≡ 金氏徹平」
GYRE GALLERY (東京)
「Glasstress. Window to the Future」The State Hermitage Museum (ロシア)
「Kirikae: From Mono-Ha to Simulationism」Each Modern (台湾)
「ART COLLABOLATION KYOTO 2021」(CMTK として) 国立京都国際会館 (京都)
「Drawn Together」Jane Lombard Gallery (ニューヨーク)
2021-22 年
「やんばるアートフェスティバル 2021-2022」(沖縄)
2022 年
「とにかくオブジェとコラージュ」桃青京都ギャラリー (京都)
「Notations in Space」STPI (シンガポール)
「消しゴム畑 at 池上」KOTOBUKI PourOver (東京)
「大地のコレクション展」越後妻有清津倉庫美術館 (新潟)
「瀬戸内国際芸術祭 2022」宇野港 (岡山)
「ヴォイド オブ ニッポン 77 一戦後美術史のある風景と反復進行ー」GYRE GALLERY (東京)
「KYOTO EXPERIMENT2022」(CMTK として) ロームシアター京都 (京都)
「Human Behavior」RICOH ART GALLERY (東京)
「池上上々日記」KOTOBUKI PourOver (東京)
「PROJECT ATAMI」(CMTK として) ACAO SPA & RESORT LOBBY MUSEUM (静岡)
2022-23 年
「ねてるひと、おきてるひと (The sleeping one, and the one that is awake)」PARCEL (東京)
2023 年
「金氏徹平 森千裕」KYOTO INTERCHANGE (京都)
「MOT コレクション」東京都現代美術館 (東京)
「2023-I コレクション・ハイライト+コレクション・リレーションズ」広島市現代美術館 (広島)
「THE CUTENESS FACTOR」ルートヴィヒ美術館 (ハンガリー)
「やなむはむだはむ展『かいき！はいせつとし』」太田市美術館図書館 (群馬)
YANBARU ART FESTIVAL 2022-2023 (沖縄)
「Remembrance」ESLITE GALLERY (台北)
2023-24 年
「ZHANG DING & TEPPEI KANEUJI : TWO CLUBS」HOW Art Museum (中国)
2024 年
「Mindscapes」Gana Art Center (ソウル)
「コレクション展 2 都市漂流」金沢 21 世紀美術館 (石川)
「T2 Collection 「Collecting? Connecting?」展」WHAT MUSEUM (東京)
「タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館 どうやってこの世界に生まれてきたの？」
弘前れんが倉庫美術館 (青森)



- 「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」 東京都現代美術館（東京）
「神戸六甲ミーツ・アート」（兵庫）
「2024 コレクション展 うつしとる 一光・時間・情報・動き」 高松市美術館（香川）
2025年 Upcoming: 「The Anime Show (working title)」 アジア協会テキサス・センター（アメリカ）
「ミネバネ！現代アート タグチアートコレクション」 秋田県立美術館、秋田市立千秋美術館（秋田）
「TEXTURE PUNK」 PARCEL（東京）
「Study : 大阪関西国際芸術祭/ EXPO PUBLIC ART」 大阪・関西万博会場内（大阪）
「Re: Human — 新しい人間の条件展」 船場エクセルビル（大阪）

[その他の活動]

- 2011年 あうるすぱっとプロデュース、岡田利規「家電のように解り合えない」ための舞台美術、あうるすぱっと（東京）
2012年 Theater company ARICA 「This is ARICA Show!!」ための舞台美術、VACANT（東京）
2013年 Theater company ARICA 「しあわせな日々」ための舞台美術、あいちトリエンナーレ 2013、愛知県芸術劇場（名古屋）
2014年 Theater company ARICA 「しあわせな日々」ための舞台美術、横浜赤レンガ倉庫1号館（横浜）
2015年 プロジェクションマッピング「holes and buildings」豊田市美術館 庭園（愛知）
Theater company ARICA 「しあわせな日々」ための舞台美術、K.T. ムハンマド・リージョナル・シアター、ケーララ州・トリシュール（インド）
2015-16年 KAAT キッズ・プログラム 2015 おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」ための舞台美術
KAAT（横浜）他
2017年 Kyoto Experiment 2017 招待作品「tower(THEATER)」 Rohme Theatre（京都）
-TPAM 招待作品「TOWER(theater)」 Bankart（神奈川）
2018年 パフォーマンス「White Discharge」 ASIA NOW（フランス）
からだ(島地保武 + 辻本知彦)「あし」ための舞台美術、象の鼻テラス（横浜）
「パフォーマンスとメディア・アートのラディカリズム-ジョーン・ジョナスとその変遷あるいは継承-」
金氏徹平 + contact Gonzo Rohme Theatre（京都）
2019年 チェルフィッシュ × 金氏徹平 「消しゴム山」 KYOTO EXPERIMENT、ロームシアター京都 サウスホール（京都）
2020年 チェルフィッシュ × 金氏徹平 「消しゴム森」 金沢21世紀美術館（石川）
2021年 金氏徹平アーカイブス これからのアートを記憶する方法、金沢21世紀美術館 プロジェクト工房
金沢21世紀美術館アートバス 「tower(BUS)」（石川）
「奥能登国際芸術祭 2020+」 石川県珠洲市高屋港、ショッピングプラザシーサイド屋上（石川）
2022年 「Music Loves Art in Summer Sonic 2022」 ZOZO マリンスタジアム（千葉）
2024年 「2024 Shanghai Maison Autumn Window "Faubourg as Infinity Tower"」
The Hermès Maison in Shanghai（中国）
2025年 MMCA Cheflitsch

[受賞]

- 2002年 京都市立芸術大学制作展 奨励賞
2010年 咲くやこの花賞 美術部門
2013年 京都市芸術新人賞（彫刻）
2014年 第33回 京都府文化賞 奨励賞
2018年 第29回タカシマヤ美術賞

[コレクション]

横浜美術館、森美術館、東京都現代美術館、広島市現代美術館、高松市美術館、国立国際美術館、豊田市美術館、金沢21世紀美術館
KADIST / パリ、サンフランシスコ、Queensland Art Gallery & Gallery of Modern Art / オーストラリア、Ullens Foundation Collection